

1. 活動の概要

6月19日(火)、松江市立意東小学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。奈良時代の松江市東出雲町と古代遺跡についての授業と、実物大の大仏パネルの組み立て体験学習をおこないました。

まず、出雲国風土記や遺跡などから古代の東出雲町がどのようなところだったのか説明を聞きました。児童たちは「意東」の地名の由来や、東出雲町にもたくさんの遺跡があることなどに興味を持ったようです。また、土器など実物の出土品の見学では、いろいろと感想を言いながら、見たり、触れたりしていました。

2時間目には、奈良の大仏の作り方や時代背景について説明を聞いた後、体育館のフロアいっぱいに、みんなで協力しながら大仏パネルを組み立てました。この体験活動を通して、大仏の大きさを実感することができました。その後の質問タイムでは、大仏の姿かたちについて次から次へと質問が出され、子どもたちの関心の高さが分かりました。最後のまとめでも、多くの児童が手を挙げて授業の感想を述べており、積極的に学習に取り組んでいました。

2. 活動の様子



奈良時代の意東地区についてのお話



実物を前に興味深く説明を聞いています



大仏パネルの組み立て中



完成！人と比べると大きさが実感できます。

3. 子ども塾を終えて

1)児童の皆さんから…

- ・みんなと協力できたし、実際の大仏の大きさが分かった。
- ・本物の大仏を作るのはどれだけ大変だったのだろうと思った。
- ・本物の大仏はどんなだろう、と行ってみたくなった。
- ・奈良時代の話がとても分かりやすく、興味深かった。「意東」の由来が分かった。とても楽しかった。
- ・重さやかたさ、うすさなど、土器にいろいろな特徴があり、興味が持てた。
- ・松江市に2000以上もの遺跡があるとは知らなかった。
- ・発掘して、土器を見つけてみたい。

2)担任の先生から…

教科書の絵でしか見られなかった奈良の大仏を、大きさや細部の確認をしながら実感することができました。また、身近な遺跡や出土品についての話をしてくださり、歴史やふるさとの昔のことについて興味を持つことができました。